

平成23年社会生活基本調査

生活行動に関する結果 (概要)

1. 学習・自己啓発・訓練

千葉県内に住んでいる 10 歳以上の人のうち、過去1年間に何らかの「学習・自己啓発・訓練」を行った人は 210 万 8 千人で、行動者率は 37.7%となっている。これは全国平均の 35.2%を上回るものの、前回調査の平成 18 年と比べると 2.4%の減少となっている。行動者率は女性よりも男性の方が高いが男女とも平成 18 年より減少しており、男性の減少率が大きいことから男女差は縮小している。〔表1〕

表1 「学習・自己啓発・訓練」の行動状況

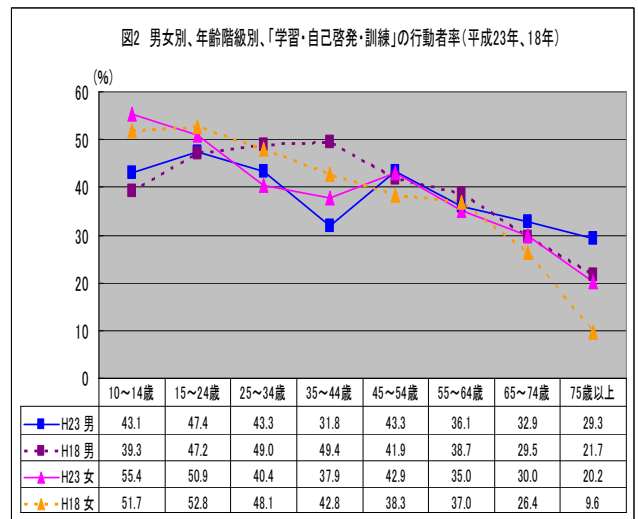
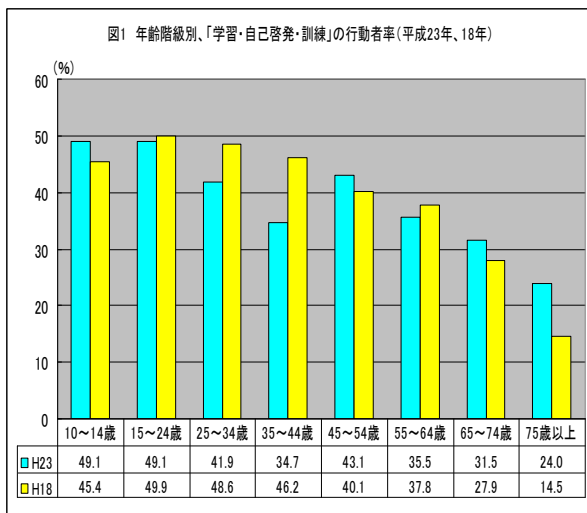
	10歳以上推定人口（千人）			行動者数（千人）			行動者率（%）		
	H23	H18	増減	H23	H18	増減	H23	H18	増減
総数	5,584	5,436	148	2,108	2,182	-74	37.7	40.1	-2.4
男	2,783	2,717	66	1,057	1,131	-74	38.0	41.6	-3.6
女	2,801	2,719	82	1,051	1,051	0	37.5	38.7	-1.2
男女差	-18	-2	-16	6	80	-74	0.5	2.9	-2.4

（参考）行動者率の全国順位

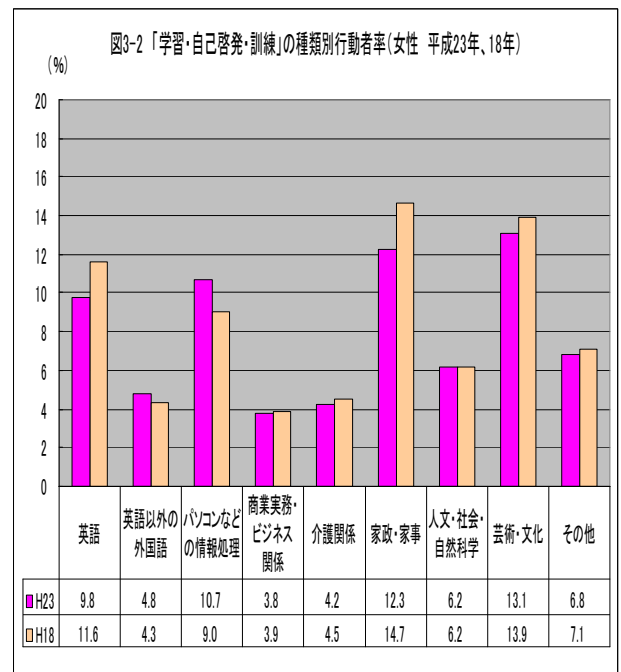
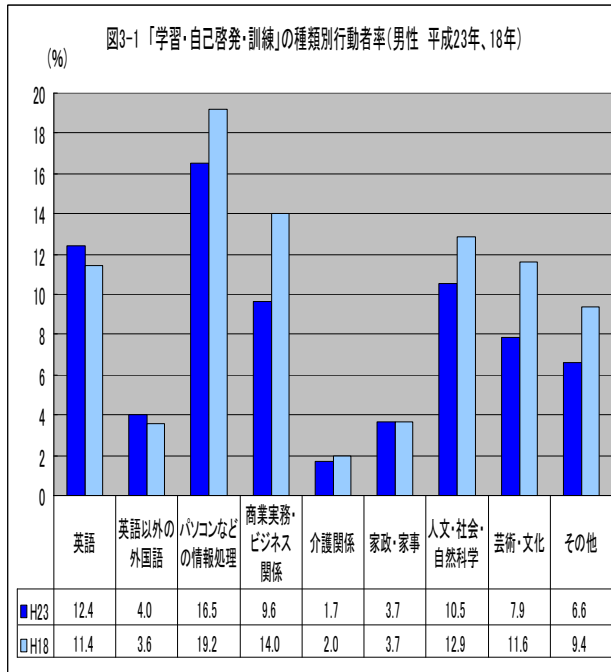
	1位		2位		3位		千葉県の位置		全国平均
平成 23 年	東京都	44.7%	神奈川県	42.1%	滋賀県	39.2%	6位	37.7%	35.2%
平成 18 年	東京都	43.8%	神奈川県	43.4%	奈良県	40.9%	4位	40.1%	35.2%

年齢階級別に「学習・自己啓発・訓練」の行動者率をみると、10～14歳、15～24歳で 49.1%と最も高くなっている。平成 18 年と比較すると、75 歳以上で 9.5%と最も増加しており、35～44歳で 11.5%と最も減少している。〔図1〕

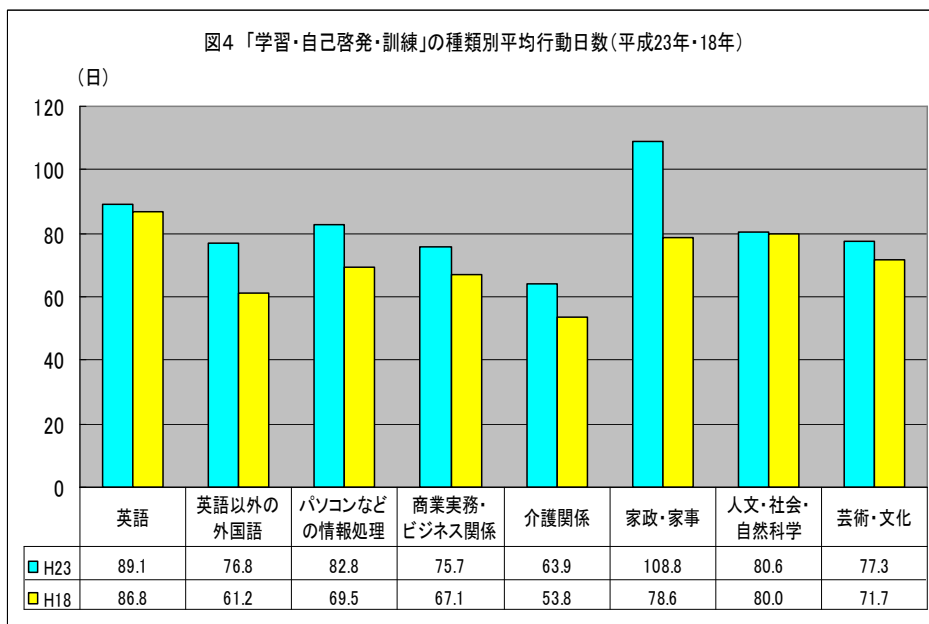
これを男女別にみると、最も割合が高いのは、男性が 15～24歳の 47.4%、女性が 10～14歳の 55.4%であり、最も低いのは、男女とも 75 歳以上(男性 29.3%、女性 20.2%)であった。平成 18 年と比較すると、最も増加しているのは男女とも 75 歳以上であり(男性 7.6%、女性 10.6%)、最も減少しているのは、男性が 35～44歳の 17.6%、女性が 25～34歳の 7.7%であった。〔図2〕



「学習・自己啓発・訓練」の種類別の行動者率を男女別にみると、男性では平成 18 年と同じく「パソコンなどの情報処理」が最も高い(16.5%)が、女性では平成 18 年に最も高かった「家政・家事」が 12.3%に減少し、「芸術・文化」の 13.1%が最も高くなっている。〔図 3-1・3-2〕



「学習・自己啓発・訓練」の種類別の1年間の平均行動日数をみると、「家政・家事」が 108.8 日と最も多い。平成 18 年と比較すると、全ての種類で平均日数が増加しているが、中でも「家政・家事」は 30.2 日と最も増加している。〔図4〕



2. スポーツ

過去1年間に何らかの「スポーツ」を行った人は368万7千人で、行動者率は66.0%となっている。これは全国平均の63.0%を上回るものの、平成18年と比べると2.4%の減少となっている。行動者率は女性よりも男性の方が高いが男女とも平成18年より減少しており、男性の減少率が大きいことから男女差は縮小している。〔表2〕

表2 「スポーツ」の行動状況

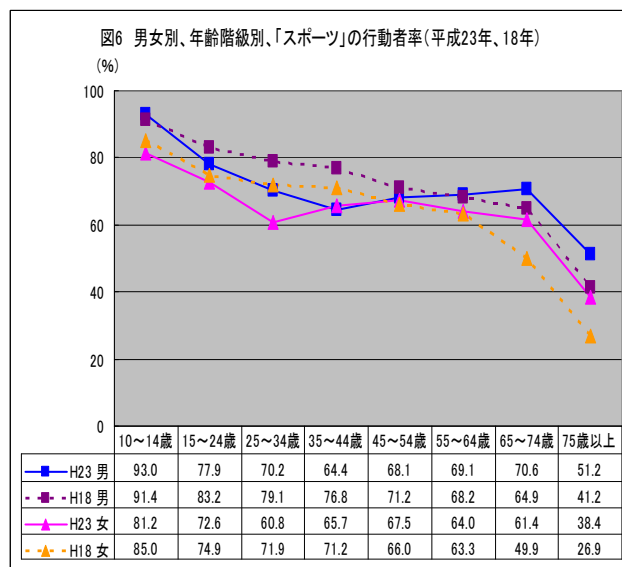
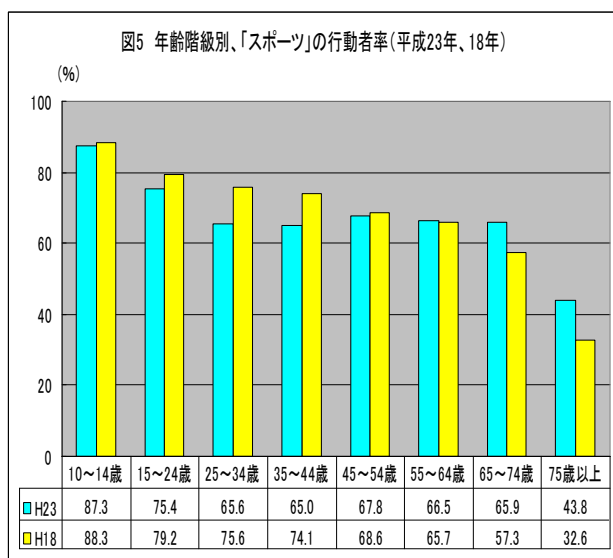
	10歳以上推定人口（千人）			行動者数（千人）			行動者率（%）		
	H23	H18	増減	H23	H18	増減	H23	H18	増減
総数	5,584	5,436	148	3,687	3,717	-30	66.0	68.4	-2.4
男	2,783	2,717	66	1,927	1,983	-56	69.2	73.0	-3.8
女	2,801	2,719	82	1,760	1,734	26	62.8	63.8	-1.0
男女差	-18	-2	-16	167	249	-82	6.4	9.2	-2.8

（参考）行動者率の全国順位

	1位		2位		3位		千葉県の位置		全国平均
平成23年	東京都	68.6%	滋賀県	67.9%	埼玉県	66.9%	5位	66.0%	63.0%
平成18年	神奈川県	71.8%	埼玉県	69.5%	滋賀県	69.1%	5位	68.4%	65.3%

年齢階級別に「スポーツ」の行動者率をみると、10～14歳が87.3%と最も高くなっており、平成18年と比較すると、54歳までは行動者率が減少し55歳以上では増加している。〔図5〕

これを男女別にみると、男女とも10～14歳が最も割合が高い（男性93.0%、女性81.2%）が、35～44歳で唯一女性が男性を上回っている（男性64.4%、女性65.7%）。平成18年と比べると、最も増加しているのは、男性が75歳以上の10.0%、女性が65～74歳と75歳以上の11.5%となっており、最も減少しているのは、男性が35～44歳の12.4%、女性が25～34歳の11.1%となっている。〔図6〕



「スポーツ」の種類別の行動者率を男女別にみると、男女とも「ウォーキング・軽い体操」が最も高く、上位3種類を平成 18 年と比較すると、「ウォーキング・軽い体操」を除いて行動率が減少している。特に、ボウリングは5%を超える減少となっている。〔表3〕

また、年齢階級別にみると、10～14 歳では「水泳」、15～24 歳では「ボウリング」、25 歳以上では、「ウォーキング・軽い体操」が最も高くなっている。〔表4〕

表3 男女別、「スポーツ」の種類別行動者率の順位(平成23年)

	1 位	2 位	3 位
男	ウォーキング・軽い体操	ゴルフ	ボウリング
	34.5% (H18:34.1% 1位)	15.9% (H18:17.5% 3位)	14.4% (H18:20.5% 2位)
女	ウォーキング・軽い体操	水 泳	器具を使ったトレーニング
	43.5% (H18:43.2% 1位)	10.4% (H18:13.0% 3位)	10.1% (H18:12.1% 4位)

※女性の「ボウリング」は、平成 18 年は 15.6%で2位だったが、平成 23 年は 9.8%で5位。

表4 年齢階級別、「スポーツ」の種類別行動者率の順位(平成23年) ※「その他」を除く

	1 位	2 位	3 位
10～ 14 歳	水 泳 38.1% (男:43.7% 女:32.2%)	ジョギング・マラソン 29.8% (男:34.4% 女:25.0%)	ウォーキング・軽い体操 29.0% (男:27.5% 女:30.6%)
15～ 24 歳	ボウリング 31.0% (男:33.2% 女:28.6%)	ウォーキング・軽い体操 30.8% (男:25.4% 女:36.6%)	ジョギング・マラソン 20.8% (男:24.6% 女:16.8%)
25～ 34 歳	ウォーキング・軽い体操 32.4% (男:24.1% 女:41.2%)	ボウリング 15.8% (男:20.1% 女:11.2%)	ジョギング・マラソン 14.8% (男:19.2% 女:10.3%)
35～ 44 歳	ウォーキング・軽い体操 35.0% (男:27.5% 女:43.0%)	ボウリング 15.0% (男:16.3% 女:13.6%)	水 泳 14.1% (男:15.0% 女:13.2%)
45～ 54 歳	ウォーキング・軽い体操 42.9% (男:35.1% 女:51.1%)	器具を使ったトレーニング 13.8% (男:11.4% 女:16.3%)	水 泳 13.0% (男:17.9% 女:7.9%)
55～ 64 歳	ウォーキング・軽い体操 48.0% (男:44.2% 女:51.7%)	ゴルフ 14.4% (男:24.8% 女:4.2%)	登山・ハイキング 12.2% (男:11.4% 女:12.9%)
65～ 74 歳	ウォーキング・軽い体操 50.9% (男:50.2% 女:51.5%)	ゴルフ 11.5% (男:20.7% 女:2.7%)	登山・ハイキング 10.0% (男:12.1% 女:7.9%)
75 歳 以上	ウォーキング・軽い体操 32.7% (男:39.5% 女:27.8%)	ゴルフ 6.2% (男:12.7% 女:1.4%)	器具を使ったトレーニング 5.2% (男:5.2% 女:5.2%)

3. 趣味・娯楽

過去1年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は 481 万 2 千人で、行動者率は 86.2%となっている。これは全国平均の 84.8%を上回るものの、平成 18 年と比べると 1.3%の減少となっている。行動者率は男女ともに同率となり、女性で平成 18 年より 1.8%減少したため、男女差は縮小している。〔表5〕

表5 「趣味・娯楽」の行動状況

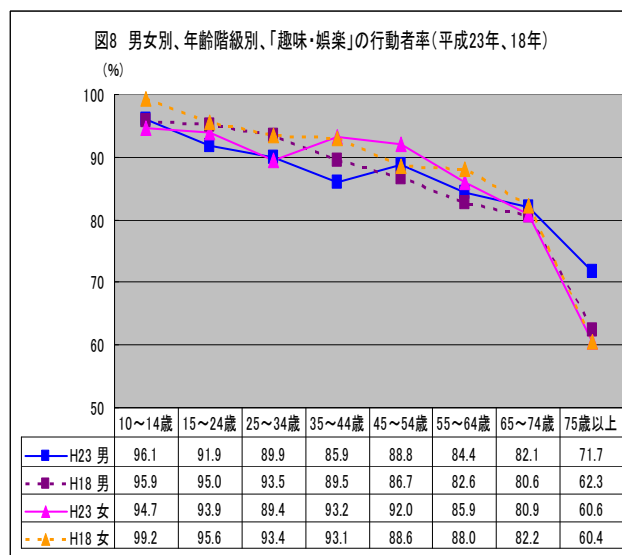
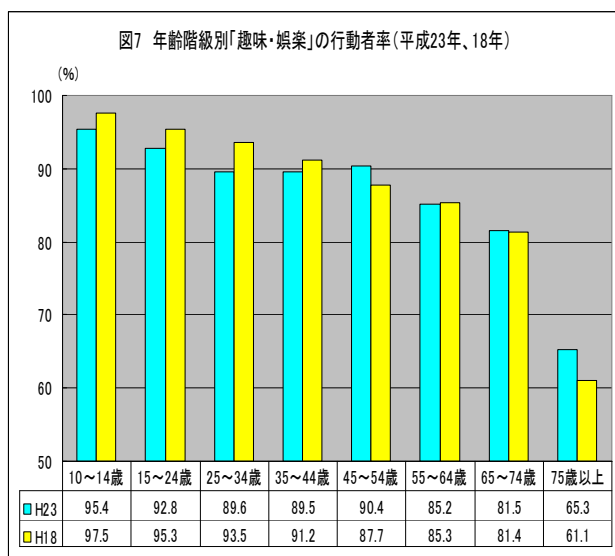
	10歳以上推定人口（千人）			行動者数（千人）			行動者率（%）		
	H23	H18	増減	H23	H18	増減	H23	H18	増減
総数	5,584	5,436	148	4,812	4,755	57	86.2	87.5	-1.3
男	2,783	2,717	66	2,398	2,363	35	86.2	87.0	-0.8
女	2,801	2,719	82	2,413	2,392	21	86.2	88.0	-1.8
男女差	-18	-2	-16	-15	-29	14	0.0	-1.0	1.0

（参考）行動者率の全国順位

	1位		2位		3位		千葉県の位置		全国平均
平成 23 年	神奈川県	88.7%	東京都	88.5%	埼玉県	87.9%	8位	86.2%	84.8%
平成 18 年	神奈川県	89.3%	東京都	88.5%	千葉県	87.5%	3位	87.5%	84.9%

年齢階級別に「趣味・娯楽」の行動者率をみると、10～14歳が 95.4%と最も高くなっており、平成 18 年と比較すると、75歳以上で 4.2%と最も増加しており、25～34歳で 3.9%と最も減少している。〔図7〕

これを男女別にみると、男女とも 10～14歳が最も割合が高くなっている（男性 96.1%、女性 94.7%）。平成 18 年と比較すると、最も増加しているのは、男性が 75歳以上の 9.4%、女性が 45～54歳の 3.4%となっており、最も減少しているのは、男性が 25～34歳と 35～44歳の 3.6%、女性が 10～14歳の 4.5%となっている。〔図8〕



男女別に「趣味・娯楽」の種類別の行動者率をみると、男女とも「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」の割合が最も高く、上位3種類を平成18年と比較すると、項目に大きな変化はないが、行動者率はそれぞれ下がっている。〔表6〕

また、年齢階級別にみると、10～14歳では「テレビゲーム・パソコンゲーム」、15～54歳では「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」、55歳以上では、「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高くなっている。〔表7〕

表6 男女別、「趣味・娯楽」の種類別行動者率の順位(平成23年)

	1位	2位	3位
男	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 46.0% (H18:55.6% 1位)	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞 40.0% (H18:49.7% 2位)	テレビゲーム・パソコンゲーム 39.6% (H18:40.8% 4位)
女	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 51.7% (H18:56.1% 1位)	趣味としての読書 48.4% (H18:50.9% 2位)	「DVD・ビデオなどによる映画鑑賞」 「映画鑑賞(DVDなどは除く)」 (「DVD」 H18:46.2% 3位) 42.7% (「映画」 H18:45.3% 4位)

表7 年齢階級別、「趣味・娯楽」の種類別行動者率の順位(平成23年)

	1位	2位	3位
10～14歳	テレビゲーム・パソコンゲーム 79.8% (男:86.8% 女:72.4%)	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 64.2% (男:55.8% 女:73.1%)	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞 57.8% (男:55.6% 女:60.1%)
15～24歳	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 70.9% (男:64.6% 女:77.7%)	テレビゲーム・パソコンゲーム 67.4% (男:70.2% 女:64.4%)	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞 59.4% (男:52.1% 女:67.3%)
25～34歳	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 63.0% (男:58.1% 女:68.2%)	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞 59.2% (男:53.8% 女:64.9%)	テレビゲーム・パソコンゲーム 58.1% (男:62.5% 女:53.4%)
35～44歳	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 59.4% (男:50.8% 女:68.7%)	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞 54.8% (男:50.0% 女:60.0%)	遊園地、動植物園、水族館などの見物 51.8% (男:42.0% 女:62.2%)
45～54歳	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 58.8% (男:56.2% 女:61.4%)	DVD・ビデオなどによる映画鑑賞 54.0% (男:52.4% 女:55.7%)	趣味としての読書 52.0% (男:44.6% 女:59.8%)
55～64歳	園芸・庭いじり・ガーデニング 46.2% (男:37.8% 女:54.3%)	趣味としての読書 43.7% (男:40.2% 女:47.2%)	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 39.1% (男:38.2% 女:40.0%)
65～74歳	園芸・庭いじり・ガーデニング 49.5% (男:45.5% 女:53.3%)	趣味としての読書 34.3% (男:34.8% 女:33.7%)	映画鑑賞(DVDなどは除く) 25.4% (男:24.7% 女:26.2%)
75歳以上	園芸・庭いじり・ガーデニング 35.3% (男:36.8% 女:34.2%)	趣味としての読書 21.6% (男:23.5% 女:20.3%)	CD・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 14.0% (男:16.4% 女:12.3%)

4. ボランティア

過去1年間に何らかの「ボランティア」を行った人は 144 万 9 千人で、行動者率は 26.0%となっている。これは全国平均の 26.3%を下回るものの、平成 18 年と比べると 1.9%増加しており全国平均に近づいている。行動者率は男性よりも女性の方が高く、男女とも平成 18 年より増加しているものの、女性の増加率が大きいことから男女差は拡大している。〔表8〕

表8 「ボランティア」の行動状況

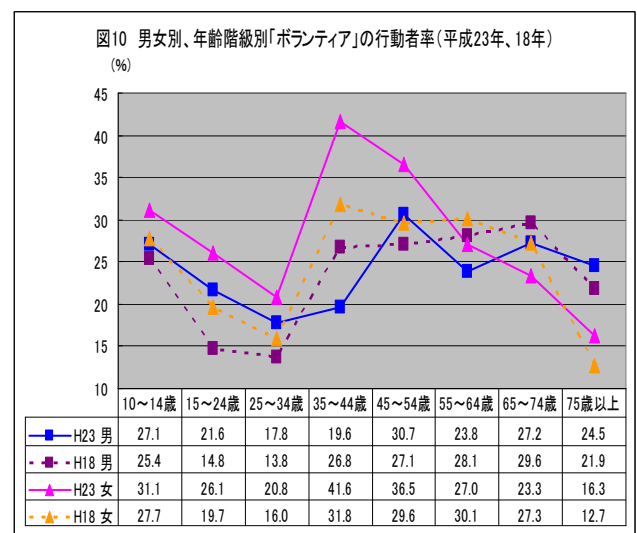
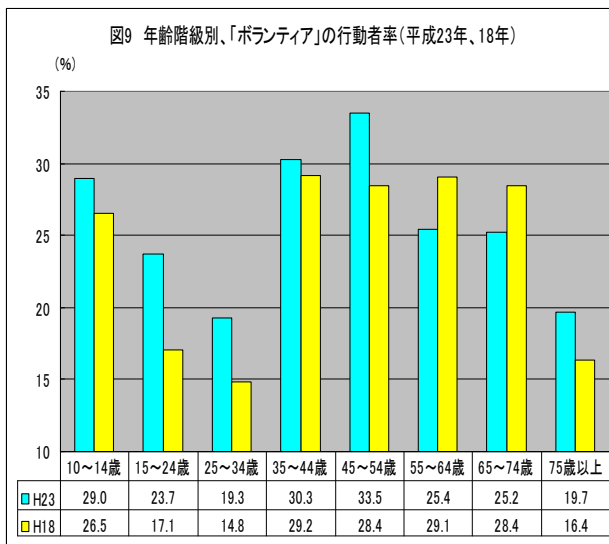
	10歳以上推定人口（千人）			行動者数（千人）			行動者率（%）		
	H23	H18	増減	H23	H18	増減	H23	H18	増減
総数	5,584	5,436	148	1,449	1,311	138	26.0	24.1	1.9
男	2,783	2,717	66	656	634	22	23.6	23.3	0.3
女	2,801	2,719	82	793	676	117	28.3	24.9	3.4
男女差	-18	-2	-16	-137	-42	-95	-4.7	-1.6	-3.1

（参考）行動者率の全国順位

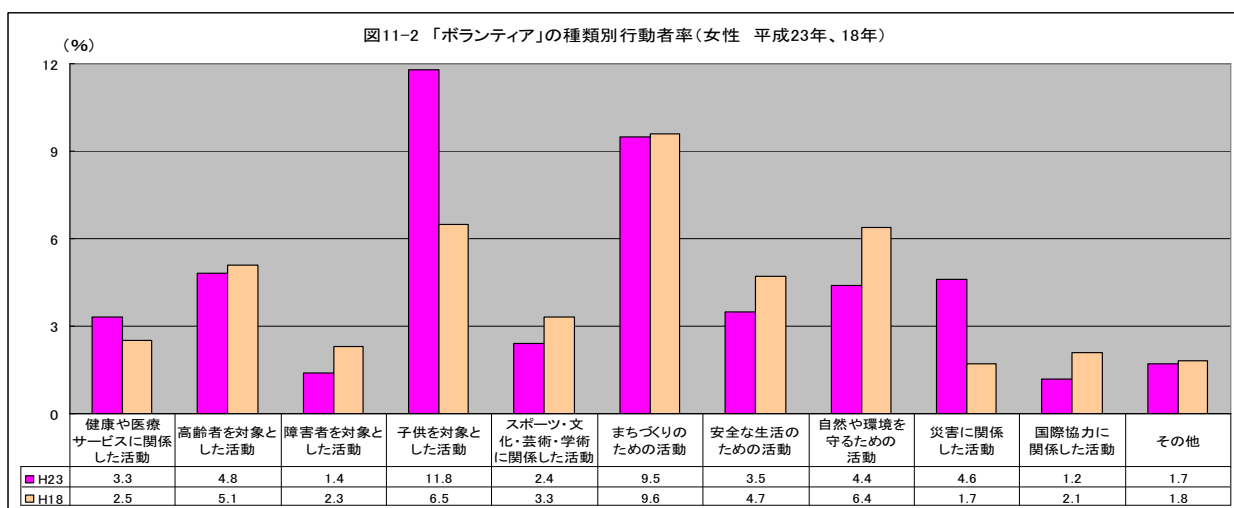
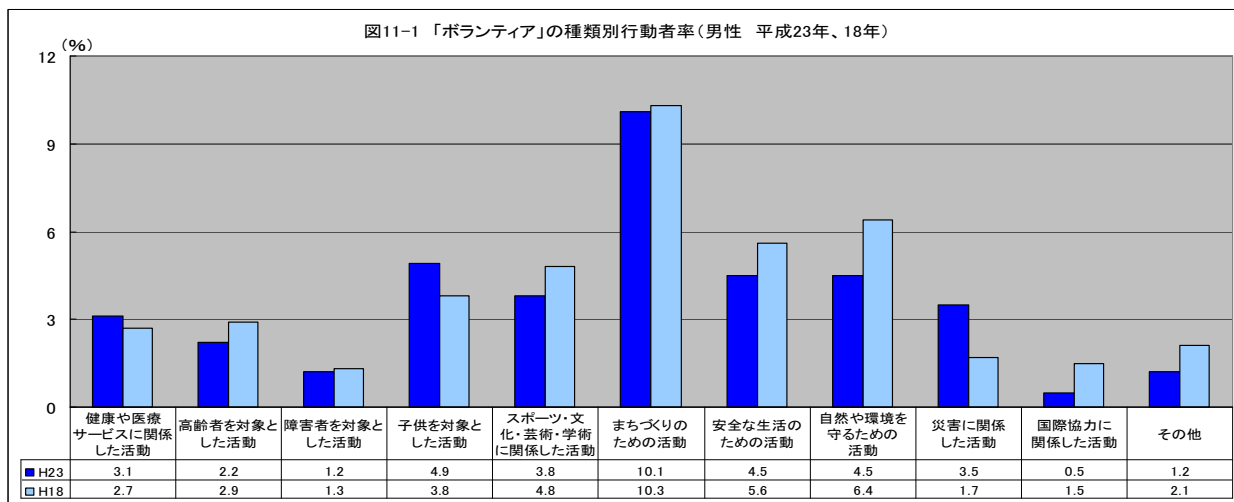
	1位		2位		3位		千葉県の位置		全国平均
平成 23 年	山形県	35.3%	島根県	34.8%	鹿児島県	34.4%	32位	26.0%	26.3%
平成 18 年	鳥取県	34.5%	滋賀県・島根県（同率2位）		34.0%		40位	24.1%	26.2%

年齢階級別に「ボランティア」の行動者率をみると、45～54 歳が 33.5%と最も高くなっており、平成 18 年と比較すると、55～64 歳、65～74 歳を除いて増加しており、15～24 歳が 6.6%と最も増加している。〔図9〕

これを男女別にみると、男性では 45～54 歳の 30.7%、女性では 35～44 歳の 41.6%が最も高くなっており、64 歳までは男性よりも女性の割合が高い。平成 18 年と比較すると、最も増加しているのは、男性が 15～24 歳の 6.8%、女性が 35～44 歳の 9.8%となっており、最も減少しているのは、男性が 35～44 歳の 7.2%、女性が 65～74 歳の 4.0%となっている。〔図10〕

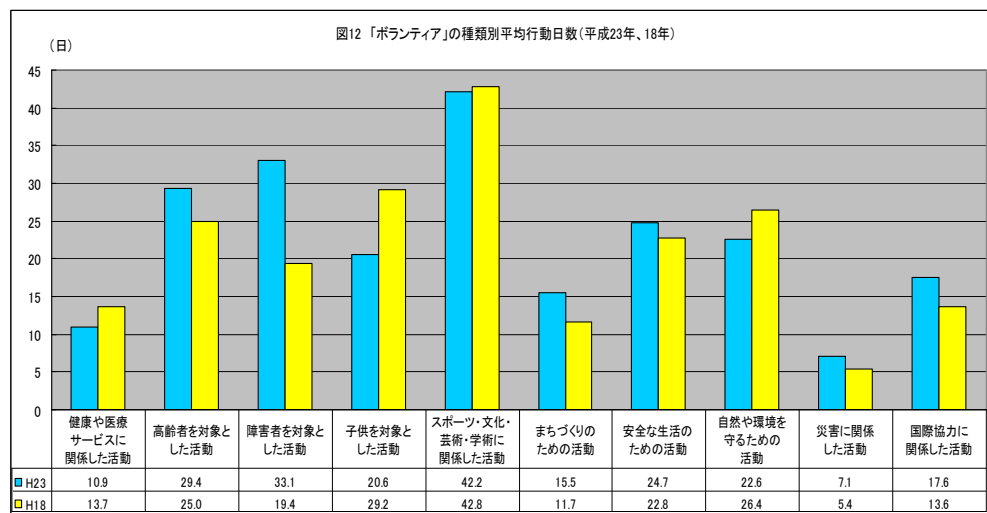


男女別に「ボランティア」の種類別の行動者率をみると、男性では「まちづくりのための活動」が 10.1%で最も高く、女性では「子供を対象とした活動」が 11.8%で最も高い。平成 18 年と比較すると、女性の「子供を対象とした活動」が 5.3%と最も増加している。〔図 11-1・11-2〕



「ボランティア」の種類別の平均行動日数をみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が 42.2 日と最も多く、平成 18 年と比較すると、「障害者を対象とした活動」が 13.7 日と最も増加している。

〔図12〕



5. 旅行・行楽

過去1年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は 414 万 2 千人で、行動者率は 74.2%となっている。これは全国平均の 73.2%を上回るものの、平成 18 年と比べると 4.7%の減少となっている。行動者率は男性よりも女性の方が高いが男女とも平成 18 年より減少しており、男性の減少率が大きいことから男女差は拡大している。〔表9〕

表9 「旅行・行楽」の行動状況

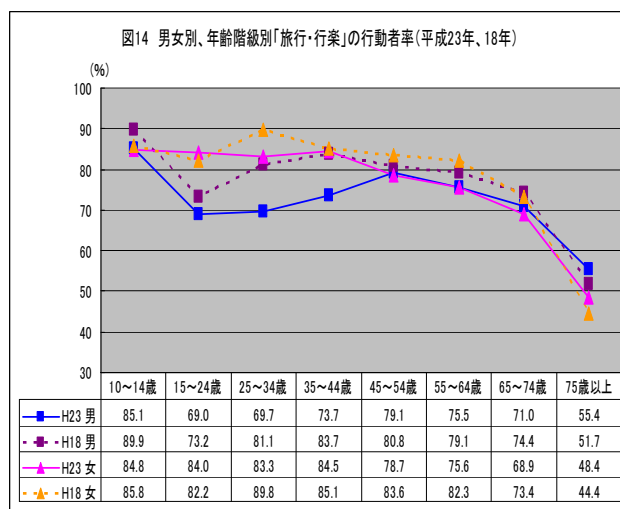
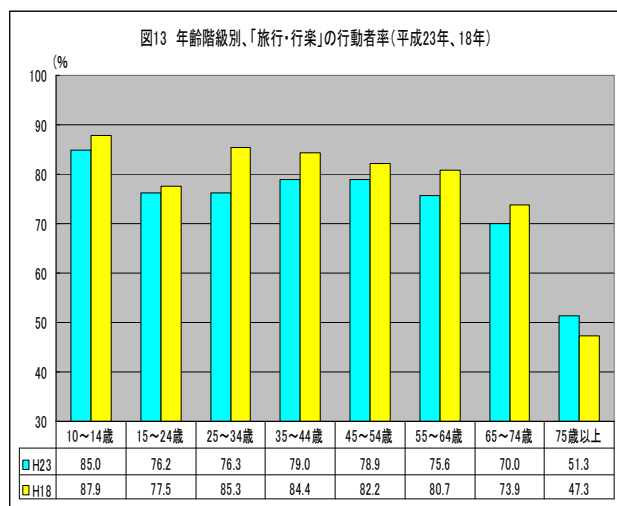
	10歳以上推定人口（千人）			行動者数（千人）			行動者率（%）		
	H23	H18	増減	H23	H18	増減	H23	H18	増減
総数	5,584	5,436	148	4,142	4,291	-149	74.2	78.9	-4.7
男	2,783	2,717	66	2,016	2,121	-105	72.4	78.1	-5.7
女	2,801	2,719	82	2,126	2,170	-44	75.9	79.8	-3.9
男女差	-18	-2	-16	-110	-49	-61	-3.5	-1.7	-1.8

（参考）行動者率の全国順位

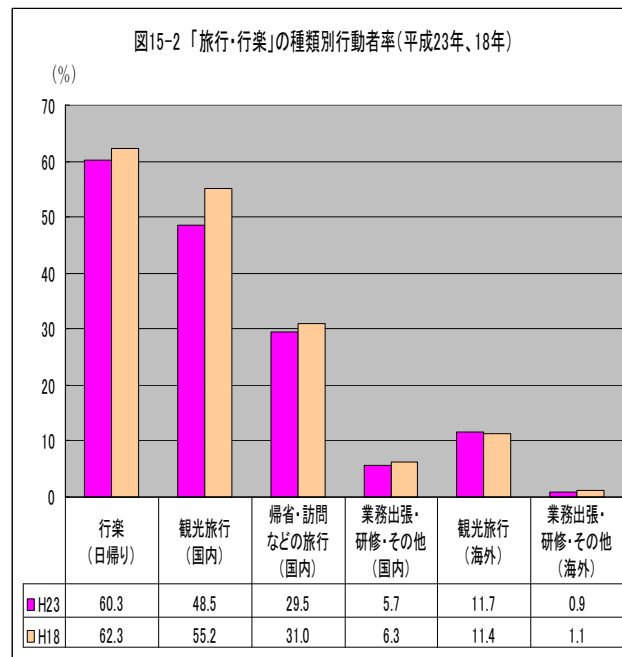
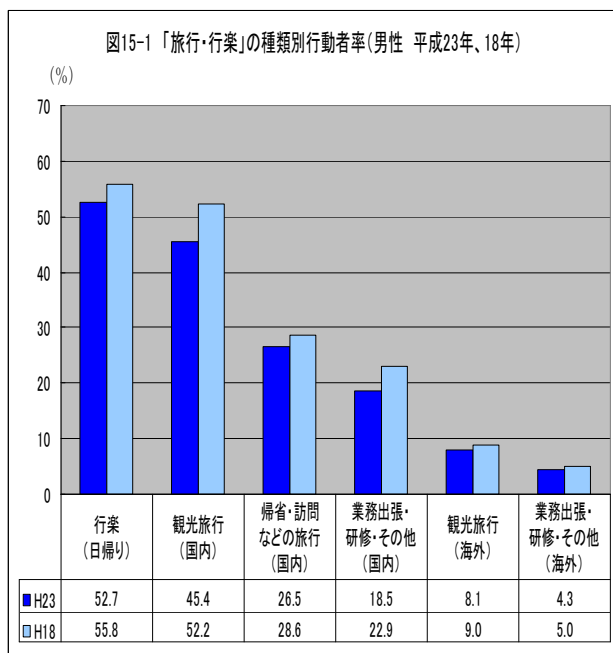
	1位		2位		3位		千葉県の位置		全国平均
平成 23 年	滋賀県	79.0%	神奈川県	78.3%	愛知県	77.6%	15位	74.2%	73.2%
平成 18 年	神奈川県	82.1%	滋賀県	81.8%	東京都 愛知県	81.7%	7位	78.9%	76.2%

年齢階級別に「旅行・行楽」の行動者率をみると、10～14 歳が 85.0%と最も高くなっており、平成 18 年と比較すると、75 歳以上で 4.0%の増加となっているがその他は減少しており、特に 25～34 歳で 9.0%と最も減少している。〔図13〕

これを男女別にみると、男女とも 10～14 歳が最も高い割合となっている（男性 85.1%、女性 84.8%）。平成 18 年と比較すると、最も増加しているのは、男女とも 75 歳以上（男性 3.7%、女性 4.0%）となっており、最も減少しているのは、男性が 25～34 歳の 11.4%、女性が 55～64 歳の 6.7%となっている。〔図14〕



男女別に「旅行・行楽」の種類別の行動者率をみると、男女とも「行楽(日帰り)」が最も高く(男性 52.7%、女性 60.3%)、「行楽」「観光」「帰省・訪問など」で男性よりも女性の割合が高い。平成 18 年と比較すると、女性の「観光旅行(海外)」を除いて減少している。〔図 15-1・15-2〕



「旅行・行楽」の頻度別に行動者率をみると、「年10回以上」が23.9%と最も高く、平成18年と比較すると、「年3回」「年10回以上」で増加している。〔図16〕

